

# 取扱説明書

小型運搬車 ランドサーフ

LS360



0915-70000



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。
- 安全性維持のため、本紙定期点検表に従い年次点検をお受けください。(有料)
- 本製品の保守には必ずメーカー純正品をご使用ください。

**//// OREC**

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

# 目 次

## 項 目 ..... 頁

《はじめに》 .....	1
《定義とシンボルマークについて》 .....	1
《本製品の規制について》 .....	1
《重要なお知らせ》 .....	2
《保証・契約書・免責事項》 .....	2

### 1. ご使用の前に〈必ずお読みください〉

1.1 作業条件 .....	3
1.2 作業をする前に .....	3
1.2.1 作業前の注意事項 .....	3
1.2.2 作業前の点検・確認 .....	4
1.2.3 火気厳禁・燃料の給油 .....	4
1.3 作業中は .....	4
1.3.1 作業中の注意事項 .....	4
1.3.2 操作上の注意事項 .....	5
1.3.3 作業中の点検・停止・清掃 .....	5
1.4 積み降ろし及び運搬時の注意 .....	6
1.5 点検・整備 .....	7
1.6 保管時 .....	7
1.7 警告表示マーク .....	8

### 2. 各部の名称とはたらき

2.1 各部の名称 .....	9
2.2 各部のはたらき .....	10
①走行クラッチレバー .....	10
②変速レバー .....	10
③スロットルレバー .....	10
④荷台ロックレバー .....	10
⑤サイドクラッチレバー .....	10
⑥荷台落下防止棒 .....	10
⑦誘導輪 .....	10
⑧ハンドル取付ボルト .....	10
2.3 方向について .....	11

### 3. 作業前の点検

3.1 エンジンオイルの点検 .....	12
3.2 燃料の点検・補給 .....	13

### 4. 運転・作業のしかた

4.1 エンジンの始動・停止のしかた .....	14
4.1.1 エンジン始動のしかた .....	14
4.1.2 エンジン停止のしかた .....	15
4.2 走行・変速・旋回・停止のしかた .....	16
4.2.1 走行のしかた .....	16
4.2.2 変速のしかた .....	16
4.2.3 旋回のしかた .....	17
4.2.4 停止のしかた .....	17
4.3 荷台ダンプ操作のしかた .....	18
4.3.1 荷台のダンプ(上昇) .....	18
4.3.2 荷台の下降 .....	18

4.4 上手な作業のしかた .....	19
4.4.1 積載時(量)の注意 .....	19
4.4.2 寒冷地での注意 .....	19
4.5 積み降ろし及び運搬 .....	20
4.5.1 積み下ろしのしかた .....	20

### 5. 点検・整備・調整

5.1 オイルの点検・交換・注油 .....	21
5.1.1 ミッションオイルの点検・交換 .....	21
5.1.2 エンジンオイルの点検・交換 .....	22
5.1.3 可動部への注油 .....	23
5.2 エンジン関連の清掃・点検・調整 .....	24
5.2.1 エアクリーナーの清掃 .....	24
5.2.2 点火プラグの点検 .....	25
5.2.3 燃料パイプの点検 .....	25
5.2.4 燃料フィルタポットの清掃 .....	25
5.3 製品本機関連の点検・調整 .....	26
5.3.1 各部ワイヤ・ベルト調整 .....	26
①走行クラッチワイヤ調整 .....	26
②ブレーキワイヤ調整 .....	27
③サイドクラッチワイヤ調整 .....	27
④走行Vベルト点検 .....	28
⑤ベルト押さえ調整 .....	28
⑥クローラー張り調整 .....	29
5.4 長期保管のしかた .....	30
5.4.1 長期保管の準備 .....	30
5.4.2 次回使用時の注意 .....	30

### 6. 附表

6.1 仕様(参考数値) .....	31
6.2 工具袋・同梱品明細 .....	32
6.3 消耗品明細 .....	32

### 7. 点検表

7.1 定期点検表 .....	
7.2 エンジンの不調とその処理方法 .....	
7.3 自己診断表 .....	

## ■ 取扱説明書について

---

- 本機を使用する前にこの取扱説明書をよくお読みください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、必ず本機と一緒にお渡しください。
- 紛失または破損した時は、直接販売店へご注文ください。

### 《はじめに》




---

- ✓ このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。
- ✓ この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただく為に、正しい取扱い方法と簡単なメンテナンス方法について説明しております。
- ✓ ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱い方法を十分に理解し、安全で能率的な作業にお役立てください。
- ✓ また、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用ください。

### 《定義とシンボルマークについて》

---

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従ってください。

シンボルマーク	定 義
 危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守または矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考	操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすい操作に関する事項を示します。

### 《本製品の規制について》

---

- 1) 本製品は農業用の機械として開発されておりますので、これ以外の用途（レンタル等で作業者が特定出来ないような使われ方）では使用しないでください。保証の対象外となる場合があります。
- 2) 本製品は圃場内の作業を目的としており、小型特殊自動車等の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されておりますのでしないでください。


## 《重要なお知らせ》

- 1) 性能・耐久性向上及びその他仕様変更による部品等の変更で、お手元の製品仕様と本書の内容が、一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 2) 本書の内容の一部、または全部を無断で複製複製（コピー）することは、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので、予め御注意ください。
- 3) 本書では説明部位が具体的に理解できる様、写真・イラストを用いておりますが、説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。
- 4) 本書は日本語を母国語としない方へのご使用を対象としておりません。

## 《保証・契約書・免責事項》

- 1) 本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を熟読頂き、内容を理解しておいてください。
- 2) 本製品の保証期間は、新品購入から1ヶ年、または50使用時間（請負業務用については6ヶ月間、もしくは50使用時間）のうち、どちらか早い時点で到達した方となっています。
- 3) 全ての注意事項を予測する事は不可能です。製品を使用する際には作業側も安全への配慮が必要です。
- 4) 本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、必ず製品お買い上げの販売店（以降販売店）まで御相談ください。
- 5) 製品を安全に効率よく御使用続けて頂く為には定期的な点検・整備が不可欠です。「定期点検表」及び「年次点検表」に記載の定期的な点検・整備を必ず最低毎年一回は販売店で依頼しましょう。  
（有料）これらの点検・整備を行わなかった事及び仕様を超えた使用・改造等本書に従わなかった事に起因する故障・事故に関しては保証の対象外となります。
- 6) この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、**製造打ち切り後9年**と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 7) ご不明な点及びサービス等関するご質問は、販売店まで御相談ください。その際は下記の箇所を参考に『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名(エンジン本体に刻印または貼付されています。)]を確認し、併せて御連絡ください。

本機「製造番号」貼付け位置



種類 Description	農用運搬車(歩行型)
型式名 Model	LS360
製造番号 Serial No	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
発売元	株式会社 オーレック
株式会社オーレック    MADE IN JAPAN Orec Co.,LTD.        FABRIQUE AU JAPON	

# 1. ご使用の前に〈安全にお使いいただく為に、必ずお読みください〉

## 1.1 作業条件



### 警告

- 1) 本書の内容を理解できない人は使用しないでください。
- 2) 所有者以外の方は使用しないことが原則です。やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」を熟読し、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導してください。
- 3) 過労、病気、薬物、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業しないでください。
- 4) 酒気を帯びた人、妊婦、子ども(中学生以下)、未熟練者にも作業をさせないでください。
- 5) 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、適切な服装で行ってください。くわエタバコ、巻き(腰)タオルは厳禁です。
- 6) 製品に応じて、滑り止め(スパイク)のついた安全靴(長靴)やヘルメット(帽子)、防護眼鏡、手袋、スネ当て等の適切な装備を使用してください。

## 1.2 作業をする前に

### 1.2.1 作業前の注意事項



### 危険

排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。屋内など換気が不十分な所では、運転や作業はしないでください。



### 警告

- 1) 安全作業の障害となるような本機の改造は絶対にしないでください。  
(カバーの切断、標準品以外の装着、指定外のベルト・オイルの使用、安全装置の取外し等)  
**〈これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。〉**
- 2) 周囲に人や動物、車両や設備、建造物等の有形資産がない事を確認してください。また、周囲の安全を確認して作業を始めてください。
- 3) 石やその他の異物は事前に取り除き、障害物の位置を事前に確認した後で作業を始めてください。
- 4) 転落防止のため、川や崖や段差(路肩)を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性を考慮し、十分に安全な平坦地を走行してください。
- 5) 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できない時には使用しないでください。



### 注意

- 1) 雨天時や水たまり等本機が大量の水を浴びるような条件での使用は避けてください。
- 2) その他気象条件等に留意し、作業実施の判断や装備の選択に十分配慮してください。

## 1.2.2 作業前の点検・確認



- 1) 前回の作業終了後に確認された要修理箇所等について、確実に修理が行われている事を作業開始前に必ず確認し、修理が完了するまでは絶対に作業を開始しないでください。
- 2) 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている安全装置及び関連部品を外したままの運転は非常に危険です。事故防止のため、これらの部品は必ず装着した状態で使用してください。もし異常がある場合は修理を行い、正常な状態を確認してから作業をしてください。
- 3) 作業クラッチ（ナイフクラッチ等）が「切」位置の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合にはエンジンを止め、ベルト押え、ワイヤを調整してください。

## 1.2.3 火気厳禁・燃料の給油



- 1) **作業中及び給油中は火気厳禁です。**引火や火傷の危険があります。くわえタバコ、焚き火等、裸火の使用等は、機械のそばで絶対行わないでください。
- 2) 給油はエンジン停止後、マフラの温度が十分下がってから行ってください。
- 3) 給油は油面上限マークあるものは、マーク以下(傾斜地使用の場合には更に少なく)にしてください。多く入れ過ぎた時はマーク以下になるまで抜き取ってください。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。
- 4) 身体に静電気が帯電した状態では行わないでください。気化したガソリンにより引火の可能性があり、火傷、火災につながる恐れがあります。

## 1.3 作業中は

### 1.3.1 作業中の注意事項



- 1) 安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないでください。
- 2) 無理な姿勢で作業を行わず、体調に合わせ1～2時間程度で休息を取るようになしてください。
- 3) 作業する周囲（半径10m以内）に人やペットを近づけないでください。特に子どもには注意してください。人・子どもが近づいた時には直ちに作業を中断し、エンジンを停止してください。
- 4) 運転中、周囲に燃えやすい物や危険物を置かないでください。また排気マフラは高温となります。本機操作時・作業終了直後等に手をかけると、火傷を負う恐れがあります。
- 5) 斜面での作業は、勾配が20°以下で使用ください。また、横傾斜で使用すると転倒する危険がありますので、本機を使用しないで下さい。
- 6) 滑り止めなどの注意を十分行って、それでも滑りやすい場所では作業を行わないでください。

### 1.3.2 操作上の注意点



- 1) 始動時は走行(主)クラッチ、作業(ナイフ・ロータリー)クラッチを「切」位置にし、中立のあるものは変速レバーを「中立」位置にして、ブレーキがあるものはブレーキを掛けてから始動してください。
- 2) 斜面では、旋回等の操作は十分に注意して行ってください。バランスを崩し、転倒してけがをする恐れがあります。
- 3) 斜面では、安全のため、変速レバー・クラッチレバー類の不要な操作は行わないでください。スリップ・転落・滑落等の危険があります。
- 4) バックする時は、人(特に子ども)や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖や段差からの転落等がない様足場に注意してください。(該当製品)
- 5) 旋回時は特に足元に注意し、作業部(ナイフ・爪など)、走行部(タイヤ・クローラー等)に巻き込まれないようにしてください。
- 6) 作業(ナイフ)クラッチは、人(子ども含む)や動物がいない事を確認し、安全に十分注意した後に操作してください。

### 1.3.3 作業中の点検・停止・清掃



- 1) 作業中に点検する際は、必ずエンジンを停止し、各部が冷えてから、手を保護するために皮手袋などの丈夫な手袋をして実施ください。
- 2) 本機より離れる時は、必ずエンジンを止めてください。また、安定した平坦地で確実に停車してください。
- 3) エンジンを止める際は、該当する製品については次の事を行ってください。
  - ①ブレーキをかける。②キーを抜く。③燃料コックを閉める。
- 4) 運転中の異常な音、匂い、発熱は火災の原因となる恐れがある為、直ちにエンジンを停止し、点検・修理してください。
- 5) 作業中、異物と衝突(噛み込み)した時は直ちに作業(草刈・耕運など)を止め、エンジンを停止してください。そして、必ずナイフ・ナイフステー・爪類(該当製品)及びカバー類の欠けや曲がりの有無を調べ、必要に応じ修正・交換ください。
- 6) その他作業中、異常を感じたら必ずエンジンを停止してから、点検を行ってください。
- 7) 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まり、特に高温となる排気管周辺に堆積した草屑等は注意深く取り除いてください。エンジンの焼付きや火災の原因となります。  
また、外側のみならず、内側もこまめに清掃してください。また、エアクリーナ内部の清掃、HSTファンカバー(該当製品)に堆積した草屑の清掃も同時に行ってください。

## 1.4 積み降ろし及び運搬時の注意



- 1) 本機を運搬する時は必ずエンジンを停止し、燃料コックを「閉」状態にしてください。燃料漏れにより、こぼれた燃料が引火する恐れがあります。
- 2) また、必要以上に本機を傾けないでください。燃料が漏れ出す恐れがあります。



- 1) 運搬用の車は製品に応じた車を使用してください。(積載重量、荷台のサイズ、干渉の有無)
- 2) 運搬用の車は平坦で安全な場所を選び、搭載時に動き出さない様にエンジンを止め、サイドブレーキを引き、車輪止めをしてください。
- 3) ナイフ・爪がブリッジと接触しない位置まで高さを調整してください。また、該当する機種は次の事を行ってください。①作業クラッチは「切」位置。②デフロックを「入」位置
- 4) 基準にあった丈夫なブリッジをゆるい勾配（15度以下）で確実にかけ、エンジン回転を下げ、積み込みは「前進」で、降ろす時には「後進」で低速でゆっくり行ってください。  
〈その際、速度や方向を変える操作は危険ですので、行わないでください。〉
- 5) 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意してください。
- 6) 運搬時は丈夫なロープ等で確実に固定してください。また、安全運転を心掛けてください。



## 1.5 点検・整備

### ◎ 品質及び性能維持のためには定期点検が不可欠です。

始業・月次点検は所有者ご自身で、年次点検は販売店(有料)へご依頼ください。

**〈定期点検を怠ったことによる事故・故障については責任を負いかねますのでご注意ください。〉**



**下記に記載の内容を守らないと火傷や傷害事故、機械故障の原因となります。**

- 1) ご使用前後に、日常の点検、整備を行う他、定期的に点検、整備を行って常に製品を安全で快適な状態に保つようにしてください。
- 2) 点検、調整、整備はエンジンを停止し、マフラ部やその他ミッションケースの過熱部位が完全に冷えてから皮手袋などの丈夫な手袋を着用し、適正な工具を正しく使用して行ってください。
- 3) 点検、調整、整備は地面が平坦で硬く、広くて明るい場所で実施し、常に機体のバランスに留意し、転倒させない様に十分注意してください。
- 4) 本機を吊り上げて点検する場合には、必ず落下防止を行ってください。
- 5) 作業部（ナイフ・爪）や走行部（タイヤ・クローラー）の交換やの着脱を行った場合は、指定の場所に確実に装着されているか、しっかりと締め付けしているか確認してください。
- 6) 作業部（ナイフ・爪）や走行部（タイヤ・クローラー）を新品に交換する際には安全のため取付けボルト類も一緒に新品と交換してください。
- 7) ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。作業中に異常を感じた箇所はそのままにせず、必ず作業を中断して点検、また作業終了後に再度点検し、必要な修理をしておいてください。
- 8) 取外したカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けてください。
- 9) 指定外のアタッチメント取付けや、改造は絶対にしないでください。
- 10) 燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年毎、また傷んだ時には締め付けバンドとともに新品と交換してください。



**下記に記載の内容を守らないと機械故障の原因となります。**

- 1) 本機を洗車する場合は、エンジン部（電装部、エアクリーナー付近、燃料キャップなど）及び警告ラベル貼付け箇所に水をかけないでください。
- 2) クラッチ類、スロットル、ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
- 3) シートをかける場合には火傷や火災を防ぐため、エンジンの停止後「約5分以上」待って、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認した上で行ってください。

## 1.6 保管時



- 1) 安全のため、燃料コックは必ず閉めてください。
- 2) 本機を長期保管する場合は屋内で保管ください。〈5.5 長期保管のしかた 参照〉
- 3) 本体や作業部に付いたごみや付着物・異物は取り除いてください。

## 1.7 警告表示マーク



- 警告表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選され、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読み頂き、十分理解して必ず守ってください。
- ※警告表示マークが見えにくくなった場合には、必ず同じものを販売店で購入、貼り換える等して常にはっきり識別できるようにしてください。〈6.3 消耗品明細 参照〉

### 警告表示マーク貼付箇所

0913-73400 警告マーク 6種

80-1923-914-10 走行クラッチマーク

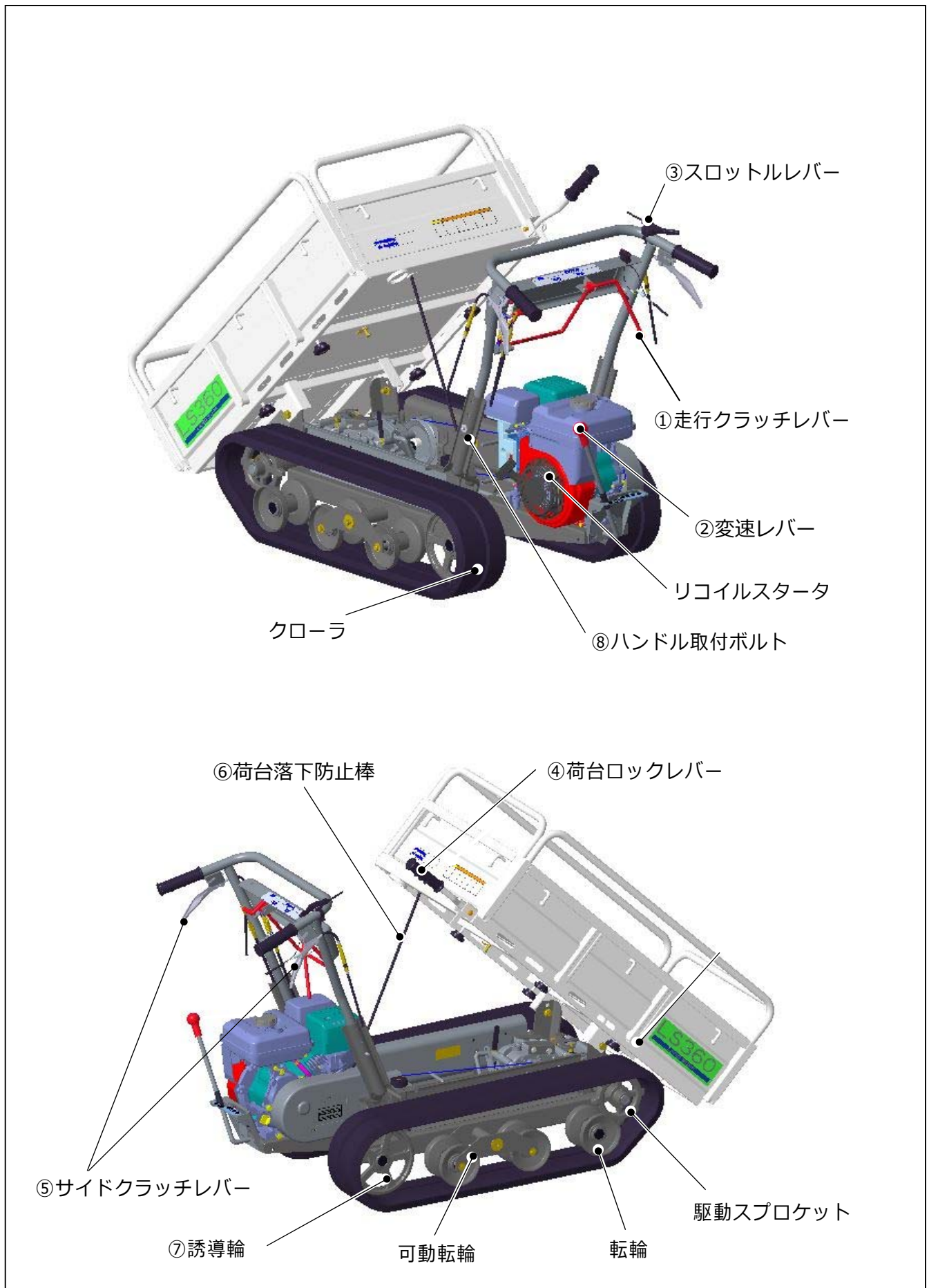
80-1923-912-00 積載量マーク

83-1516-908-00 注意マーク 17

0253-72500 警告ラベル ④

## 2. 各部の名称とはたらき

### 2.1 各部の名称



## 2.2 各部のはたらき

### ① 走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。

レバーを引き上げると「走行」位置、押し下げると「停止」位置になります。

参考；

- 1) 右手親指の操作でハンドルから手を離す事なく「停止」位置にすることもできます。また、このレバーはブレーキ連動式で、レバーを押し下げると同時に駐車ブレーキも「入」の状態となります。
- 2) 後進時には、ハンドルと障害物との間に作業者が挟まれるのを防止する“緊急停止装置”として作動します。
- 3) 緊急時には、赤色のレバーの中央部分を手で叩くようにして押し下げてください。本機は停止し、駐車ブレーキがかかります。

### ② 変速レバー

走行速度の選択に使用します。

変速は前進が「前進①」・「前進②」の2段、後進も「後進①」・「後進②」の2段です。

変速操作は走行クラッチレバーを「停止」位置にして、本機が停止した状態で行ってください。



**注意**

走行クラッチレバーが「走行」位置のまま変速レバーの操作を行うと、危険だけでなく、ミッション内部のギヤが破損する恐れがあります。

### ③ スロットルレバー エンジン回転数の増減を調整します。

### ④ 荷台ロックレバー（手動）

荷台をダンプさせるときに使用します。レバーを握り、そのまま上に引き上げてください。

### ⑤ サイドクラッチレバー

進行方向を変えるときに使用します。本機はレバーを握った方向に旋回します。



**警告**

サイドクラッチは、車速を十分に落として小刻みに操作してください。高速で操作すると急旋回となり、大変危険です。

### ⑥ 荷台落下防止棒 整備など、荷台を上げて作業する際は安全の為、荷台落下防止棒を使用します。

### ⑦ 誘導輪 クローラーを張ります。

### ⑧ ハンドル取付ボルト ハンドルを固定するボルトで、取付穴の位置で高さを3段階調整できます。

## 2.3 方向について

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者から見た方向で表します。



### 3. 作業前の点検

- 作業を始める前に「1.2 作業をする前に」を確認し、下記の「始業前点検表」及び「7.1 定期点検表」に従って始業前点検を必ず行ってください。

※不明な点や異常な点があれば、必ずお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

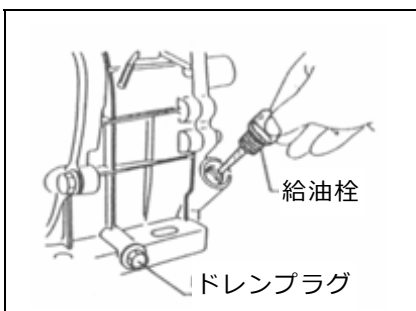
始業前点検表（定期点検表からの要約）		
	項目	点検内容
エンジン	①エンジンオイル	「オイル量、汚れ」を確認〈3.1 参照〉
	②エアクリーナー	「汚れ」を確認、清掃〈5.2.1 参照〉
本機	①ナイフ（爪）	〈5.点検・整備 参照〉
	②ブレーキ(該当製品)	「1」 ボルトナットのゆるみ、脱落
	③タイヤ(クローラー)	「2」 変形、磨耗、干渉
	④レバー類	「3」 スムーズに動くか、固着
	⑤カバー類	「4」 ごみ、草、わら等の異物を取り除く
	⑥HST オイル(該当製品)	「オイル量、汚れ」を確認



#### 警告

- 1)点検、給油、調整、整備は必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 2)エンジンを始動し、走行クラッチレバー等の動作確認を実施する場合は、各レバー位置と周囲の安全を確認してから行ってください。
- 3)本機に貼られている警告表示マークも良く読んでください。

#### 3.1 エンジンオイルの点検



- ①本機を水平にしてオイルゲージを外します。
- ②給油口にねじ込まずに差し込んで、オイルゲージの上限と下限の間にオイルがあることを確認してください。  
(給油栓がオイルゲージを兼用しています。)
- ③少ない場合は上限近くまでオイルが来るように補給してください。注油するオイルの量はゲージを参考にしてください。



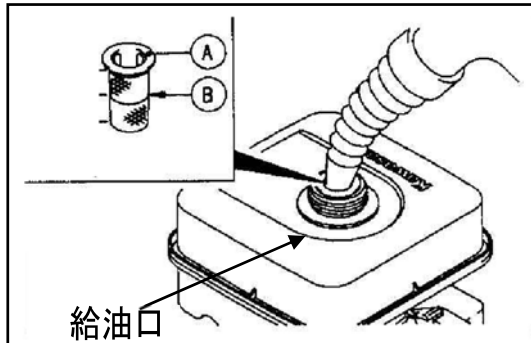
#### 注意

- 1)エンジンオイルの点検をエンジン運転後に行う場合は、エンジンの停止後「約 5 分以上」待って、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認した上で行ってください。
- 2)本機には出荷時、少量のエンジンオイルが残っています。  
※始動前には必ずエンジンオイル量を確認してください。
- 3)エンジンオイルは S D 級以上の良質で新しいオイルを使用し、気温によって使い分けてください。
- 4)補給後、オイルゲージは確実に締め付けてください。締め付けが緩いとエンジンオイルが漏れ出す恐れがあります。

## 「推奨オイル」

夏季（10℃以上）	SAE 30, SAE 10W-30, またはSAE 40
冬季（10℃以下）	SAE 5W20, またはSAE 10W-30

## 3.2 燃料の点検・給油



- ①本機を水平にして燃料給油キャップを外し、給油口から燃料の量を点検します。
- ②少ない場合は左図を参照にⒷを給油限度として給油口から、こぼれない様に燃料を補給してください。  
〈使用燃料：無鉛レギュラーガソリン〉  
〈燃料タンク容量：6.1 仕様参照〉
- ③補給後は燃料給油キャップを確実に締付けてください。

※傾斜地での使用は、Ⓑよりさらに少なく(こぼれない量に)してください。


**危険**
**1) 作業中及び給油中は火気厳禁です。**

引火や火傷の危険があります。くわえタバコ、焚き火等、はだか照明の使用等は、機械のそばで絶対に行わないでください。

**2) 給油はエンジン停止後、マフラの温度が十分下がってから行ってください。**
**3) 給油は油面上限マークあるものは、マーク以下(傾斜地使用の場合には更に少なく)にしてください。多く入れ過ぎた時はマーク以下になるまで抜き取ってください。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。**
**4) 身体に静電気が帯電した状態では行わないでください。気化したガソリンにより引火の可能性があり、火傷、火災につながる恐れがあります。**

**警告**

平坦な安定した、換気の良い場所で行ってください。


**注意**

- 1)燃料を補給する場合は、ほこり・草・雨・雪などの異物が燃料タンク内に入らないようにしてください。エンジン不調の原因になる恐れがあります。
- 2)無鉛レギュラーガソリン以外は使用しないでください。エンジンに損傷を与える原因になります。
- 3)ガソリンは自然劣化します。一ヶ月以上使用しない場合は新しいガソリンと入れ替えてください。またポリタンクに保管したガソリンも使用しないでください。不調の原因となることがあります。

## 4. 運転・作業のしかた

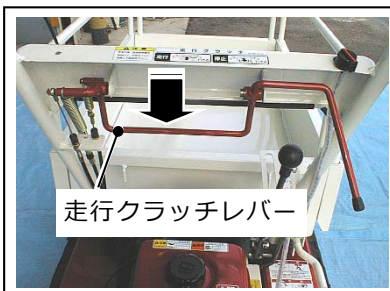


※「1. 使用上の注意」を運転する前に、必ずお読みください。

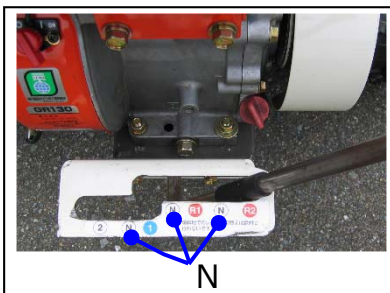
特に、「1.1 作業条件」「1.2 作業をする前に」「1.3 作業中は」をよく読み、理解したうえで運転・作業を行ってください。

### 4.1 エンジンの始動・停止のしかた

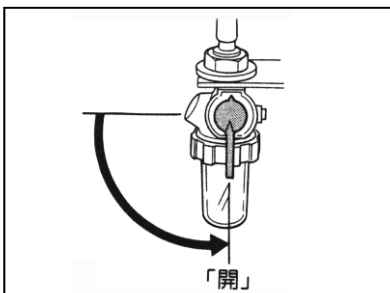
#### 4.1.1 エンジン始動のしかた



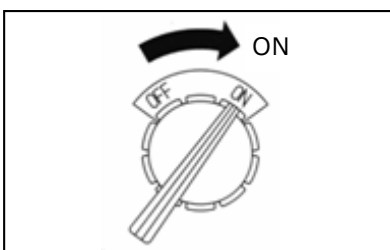
① 走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。



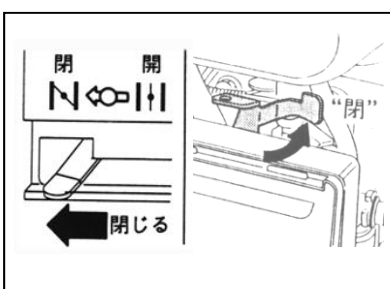
② 変速レバーを中立「N」ニュートラル位置にしてください。



③ 燃料コックを「開(ON)」位置にしてください。



④ エンジンスイッチのボタンを右に回して「運転(ON)」位置にしてください。

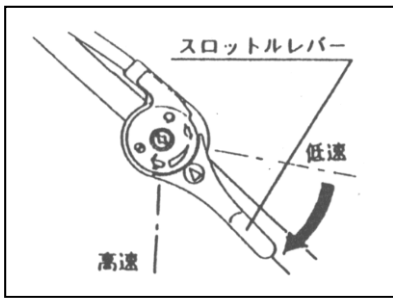


⑤ チョークレバーを操作し、チョーク弁を「全閉」位置にしてください。

※搭載エンジンによって操作方法が異なります。

参考；エンジンがあたたまっている時は、チョークレバーの操作は必要ありません。

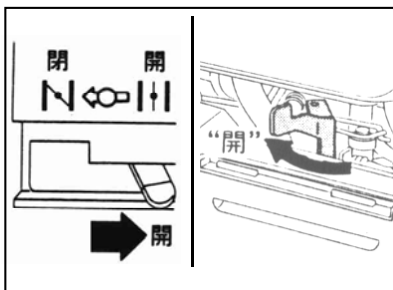




⑥スロットルレバーを「」と「」位置の中間位置にしてください。



⑦スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から一旦戻した後、勢いよく引っ張ってください。  
エンジンの始動後は、スタータノブは元の位置にゆっくりと戻してください。



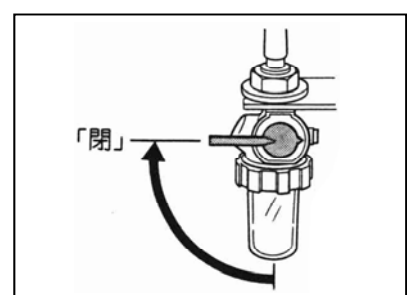
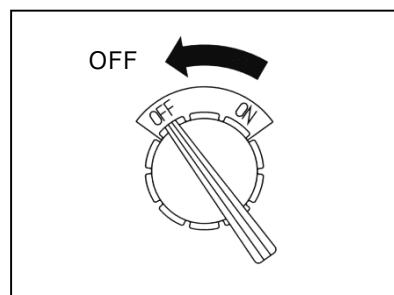
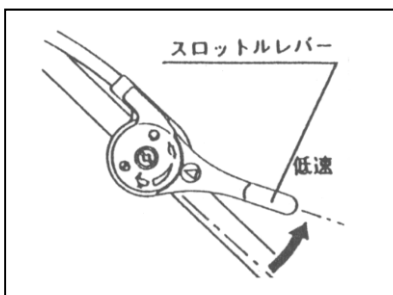
⑧エンジン始動後はチョークレバーを戻し、チョーク弁を

「全開」位置にしてスロットルレバーを低速側「」位置でしばらく(5分程度)の暖機運転を行ってください。  
暖機運転を行うことにより、エンジンの寿命をのばします。  
※搭載エンジンによって操作方法が異なります。

**注意**

- 1)新製品購入後、最初の一週間(3~4時間)は、慣らし運転期間として、過負荷をかけない様に控えめな運転を心がけてください。
- 2)チョークレバーを「全閉」位置のまま使用すると、エンジン各部に悪影響を与え、エンジンの寿命を短くしますのでご注意ください。

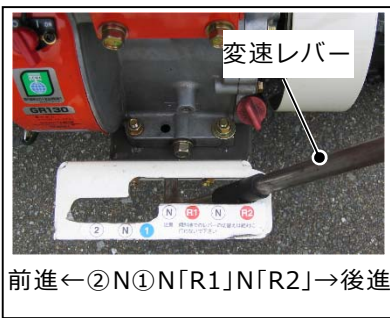
4.1.2 エンジン停止のしかた



- ①スロットルレバーを低速「」位置にし、エンジンスイッチを「停止(OFF)」位置にしてエンジンを停止してください。
- ②最後に燃料コックを「閉(OFF)」位置にしてください。

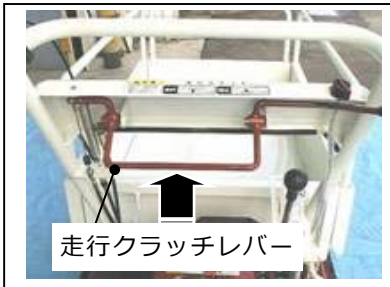
## 4.2 走行・変速・旋回・停止のしかた

### 4.2.1 走行のしかた



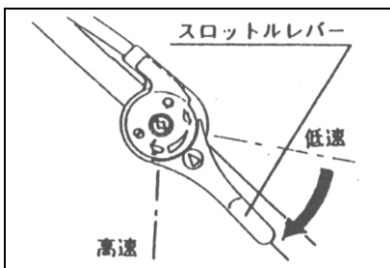
①エンジンを始動させてください。  
〈4.1.1 エンジン始動のしかた 参照〉

②変速レバー変速位置[1、2、R1、R2]に確実に入れてください。  
〈4.2.2 変速のしかた 参照〉



③走行クラッチレバーを「走行」位置にゆっくりと引き上げ、発進させてください。

参考；走行クラッチレバーを一気に引き上げると、積荷の状況によってはエンストする場合があります。



④スロットルレバーを低速側「」から高速側「」へ徐々に動かし、走行速度を調整します。

### 4.2.2 変速のしかた



1)変速(ギヤチェンジ)が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあり大変危険です。

ギヤが入りにくいときには無理に入れず、走行クラッチレバーを「走行」位置方向へ少し動かした後、再度変速操作を行ってください。

2)傾斜地でギヤ抜けやN位置の場合に走行クラッチレバーを入れると、滑落の危険があります。

・**傾斜地での「変速操作」は絶対に行わないでください。**

3)走行しながらの変速操作は危険です。変速は必ず本機を停止した後に行ってください。



①本機の変速位置は左より次のとおりです。

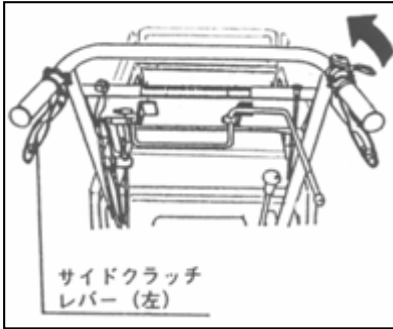
「①(前進)」「N」「②(前進)」「N」「R1(後進)」「N」「R2(後進)」

②本機を停止させた後、任意の位置にレバーを動かし、確実に変速位置[1、2、R1、R2]に入れてください。

## 4.2.3 旋回のしかた

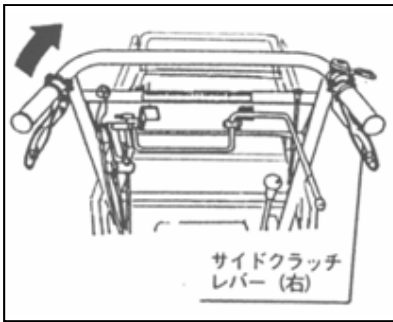


- 1) 左右両方のサイドクラッチレバーを同時に握ると急停車しますが、同時に非常に危険です。危険回避の場合を除き、このような操作はしないでください。
- 2) 急旋回は行わないでください。サイドクラッチレバーを小刻みに操作し、旋回してください。



## ●左旋回する場合

- ①左側サイドクラッチレバーを握ってください。



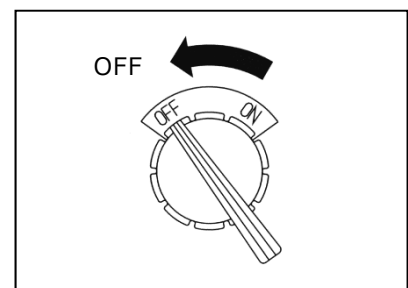
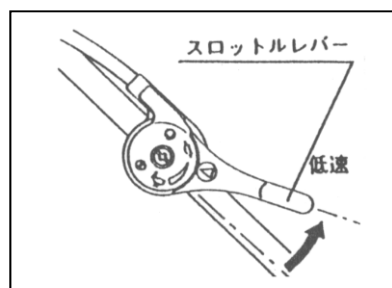
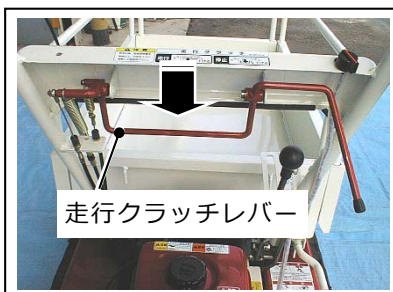
## ●右旋回する場合


- ②右側サイドクラッチレバーを握ってください。

## 4.2.4 停止のしかた



- 1) 積載時・傾斜地においては本機が反動で浮き上がることがあります、十分に注意してください。
- 2) 本機を離れるときには、必ずエンジンを停止してください。  
また、本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車してください。



- ① 走行クラッチレバーを「停止」位置にして本機を停止させてください。駐車ブレーキがかかります。
- ② スロットルレバーを低速側「」位置にしてください。
- ③ エンジンスイッチを押して「停止(OFF)」位置にし、エンジンを停止してください。

〈4.1.2 エンジン停止のしかた 参照〉

### 4.3 荷台ダンプ操作のしかた

- ミッション及びベルトの点検の際には下記の要領に従い荷台のダンプ操作を行ってください。

#### 警告

- 1) 荷台に荷物を積載したままのダンプ操作は行わないでください。  
操作が重くなるばかりでなく、重心の移動により積み荷または本機の転倒等、非常に危険です。
- 2) 荷台をダンプ(上昇)して荷台下等の点検を行う場合には、危険防止のため、備え付けの荷台落下防止棒を使って荷台を確実に支えてください。 (2.2 各部のはたらき 参照)
- 3) 傾斜地や積み荷が前方に片寄っている場合に荷台のロックを解除すると、同時に荷台が急激にダンプ(上昇)する場合がありますので、十分に注意してください。
- 4) 傾斜地でのダンプ操作は、荷台のダンプ(上昇)に従い重心位置が高くなるため本機が不安定となり、非常に危険ですのでやめてください。やむを得ない場合にはクローラ下にりん木等を敷き本機を水平に保ってください。

#### 注意

- 1) 軟弱な圃場内、又は走行中のダンプ操作は絶対にしないでください。重心の移動等が起こり本機の転倒等、大変危険です。
- 2) ダンプ操作は、本機に衝撃を与えないようにゆっくりと行ってください。

#### 4.3.1 荷台のダンプ(上昇)



- ① 荷台ロックレバーを握り、そのまま荷台を手で前方に持ち上げてください。



- ② 荷台を荷台落下防止棒で確実に支えてください。

#### 4.3.2 荷台の下降



- ① 荷台落下防止棒を荷台から取り外し、本機フレームに格納してください。
- ② 荷台ロックレバーを握り、荷台を手動で後方へ倒し、一番下まで押し込むと荷台はロックされます。
- ③ 荷台ロックレバーを操作せずに荷台を上を持ち上げ、荷台が確実に「ロック」されているか確認してください。

## 4.4 上手な作業のしかた



- 1) 作業前の圃場内異物・障害物の除去は、作業者の責任で確実に実施してください。また、急傾斜及び軟弱な路肩、地面の凸凹等のある区域での作業は危険なため、作業を行わないでください。
- 2) 安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないでください。
- 3) 傾斜地で走行クラッチを切ったり、変速レバーを操作すると滑落する危険があります。  
**傾斜地では、これらの操作を絶対にしないでください。**
- 4) 下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、スロットルレバーを低速側にして減速を行ってください。十分な減速を行わないで停止操作を行うと、車体が浮き上がる恐れがあり危険です。
- 5) 後進時は人や動物等、障害物がない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がないよう足場に十分注意して作業を行ってください。



- 1) 作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、スパイク靴や帽子またはヘルメット、すね当て、防護メガネ(製品付属)等を常に着用してください。
- 2) 本機運転中のエンジンマフラは高温になり、誤って触ったりすると火傷の危険があります。運転中及び運転停止後約 10 分の間マフラには絶対に触らないでください。
- 3) 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まり泥詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側および内側もこまめに清掃してください。また、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。
- 4) 平坦部と傾斜部との境目(路肩)を走行する場合は、車両の重みで路肩が崩れる危険があります。特に軟弱な路肩付近では速度を落とし、慎重に走行してください。
- 5) 木橋等を渡る時は、本機の機械重量と積載量及び作業者の体重の総重量が、木橋等の制限重量を越えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。

### 4.4.1 積載時(量)の注意

- 1) 本機の積載量は「300kg」です。過積載は危険です、絶対行わないでください。
- 2) 15°～20°の傾斜地では、積載量を「150kg」以下にして走行してください。20°を越える急傾斜地では、本機を使用しないでください。また、横傾斜で使用すると転倒する危険がありますので、本機を使用しないでください。
- 3) 積み荷は偏過重にならないよう、荷台に均一に乗せ、ロープで固定するように心掛けてください。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

### 4.4.2 寒冷地での注意

- 1) 冬季は、使用後必ず本機に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した路面、または角材の上に駐車してください。付着物が凍結して故障の原因となります。
- 2) また、凍結して運転不可能になった場合には無理に動かそうとせず、凍結箇所をお湯で溶かすか、凍結が溶けるまで待ってください。  
(無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特にご注意ください。)

## 4.5 積み降ろし及び運搬

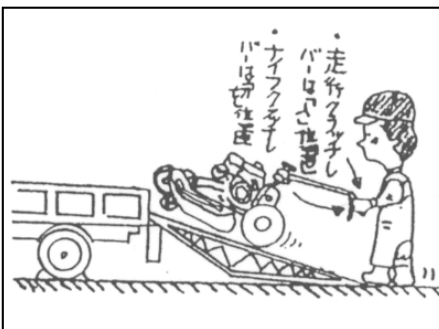


- 1) 本機を運搬する時は必ずエンジンを停止し、燃料コックを「閉」状態にしてください。燃料漏れにより、こぼれた燃料が引火する恐れがあります。
- 2) また、必要以上に本機を傾けないでください。燃料が漏れ出す恐れがあります。



- 1) 運搬用の車は製品に応じた車を使用してください。(積載重量、荷台のサイズ、干渉の有無)
- 2) 運搬用の車は平坦で安全な場所を選び、搭載時に動き出さない様にエンジンを止め、サイドブレーキを引き、車輪止めをしてください。
- 3) ナイフ・爪がブリッジと接触しない位置まで高さを調整してください。また、該当する機種は次の事を行ってください。①作業クラッチは「切」位置。②デフロックを「入」位置
- 4) 基準にあった丈夫なブリッジをゆるい勾配（15度以下）で確実にかけ、エンジン回転を下げ、積み込みは「前進」で、降ろす時には「後進」で低速でゆっくり行ってください。  
〈その際、速度や方向を変える操作は危険ですので、行わないでください。〉
- 5) 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意してください。
- 6) 運搬時は丈夫なロープ等で確実に固定してください。また、安全運転を心掛けてください。

## 4.5.1 積み下ろしのしかた



- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んでください。
- ② 基準にあったブリッジをゆるい勾配（15度以下）で、また、製品に合わせた幅で、確実にかけてください。
- ③ 本機の車輪がブリッジの中央に位置するようにしてください。
- ④ エンジン回転を下げ、作業クラッチは「切」にしてください。
- ⑤ 積み込みは「前進」で、降ろす時には「後進」で低速でゆっくり行ってください。

## 参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用してください。

- 長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの。
- 幅 …本機の車輪幅にあったもの。
- 強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分たえるもの。
- スリップしないように表面処理が施してあるもの。

## 5. 点検・整備・調整

### 5.1 オイルの点検・交換・注油



- 1) 出荷時、本機にオイルは注油されていますが、初めて本機をご使用になる前には、必ず指定の箇所に指定のオイルを指定の量だけ確実に注油してください。
- 2) 定期的なオイル交換は、本機を常に最良の状態を使用するために是非必要です。
- 3) 注油は少しずつおこなってください。一度に注油しようとする、エアが抜けずに注油口よりすぐにオイルが溢れ出ます。注油口まで油面がきていることを確認してください。
- 4) 各部オイルの点検・交換・注油をする場合には、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後に停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを「約5分以上」待ってから作業を行ってください。

… エンジン停止後、すぐに作業を行うと …

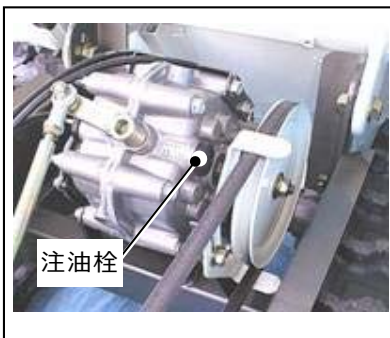
\* エンジン本体はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。

\* エンジン停止直後は各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

■ 交換後の廃油は、お住まいの地方公共団体の取り決めに従い適切に処理をしてください ■

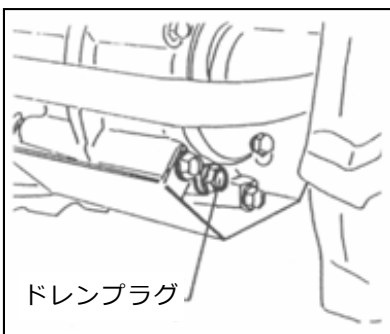
#### 5.1.1 ミッションオイルの点検・交換

◎ 点検・補給… 注油量を厳守ください。



- ① 荷台を手動でダンプさせます。
- ② ミッションケース上部の注油栓を取り外してください。  
(オイル栓は左右両面にあります。)
- ③ 注油口よりオイル量及び汚れを目視点検し、オイルが不足している場合及び汚れがひどい場合には、補給または全量交換(下記参照)します。
- ④ 注油栓を左右両面ともに確実に取り付けてください。
- ⑤ 荷台を下降させてください。

◎ 交換…



- ① オイルを受ける適当な容器を用意します。
- ② ミッションケース左側面下部(車軸下部)のドレンプラグ(廃油栓)を取り外し、オイルを抜き取ります。

参考；同時に注油栓も取り外しておくと、オイルが抜き取りやすくなります。

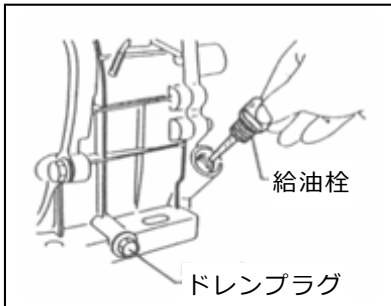
- ③ ドレンプラグを確実に取り付けした後、ミッションオイル(#90)を1.6ℓ注油してください。

#### 交換の目安

初回：20時間目、2回目以降：100時間毎

## 5.1.2 エンジンオイルの点検・交換

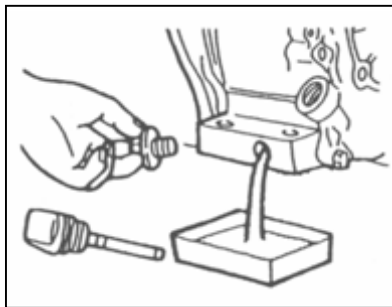
## ◎点検・補給…



①毎運転前に〈3.1 エンジンオイルの点検〉を参考にエンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し、規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には、補給または全量交換（下記参照）してください。

〈使用するオイルの質・量は 3.1 エンジンオイルの点検 参照〉

## ◎交 換…



②オイルを受け取る適当な容器を用意します。

③エンジン側下部にあるドレンプラグ(排油栓)を取り外し、クランクケース内のオイルを抜取ります。

参考 ; 同時に給油栓も取り外しておくこと、オイルが抜き取りやすくなります。

④オイル排出後、ドレンプラグを確実に取り付けてください。

⑤〈3.1 エンジンオイルの点検〉を参考に指定のエンジンオイルを注油してください。

## 交換の目安

初回 : 5 時間目、2 回目以降 : 2 5 時間毎

## 参考 ;

- 1) 搭載エンジンによってドレンプラグの位置が異なる場合がありますので注意してください。
- 2) オイル交換後は取り外したカバー、タイヤ、ドレンプラグ、給油栓を確実に取付けてください。
- 3) 高負荷または高温下で連続長時間使用する場合には、上記目安より早めの交換(約半分の時間)を励行してください。

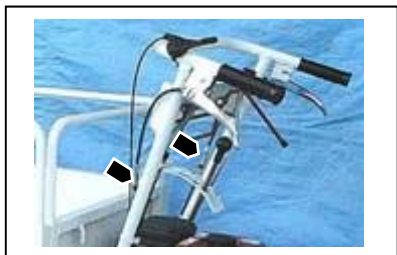


## 5.1.3 可動部への注油

**注意**

- 1) 約30時間毎にグリスを、その他の部分には必要に応じてエンジンオイル(#30)を注油してください。特に、グリスの注油を怠ると潤滑不良により破損の原因となる恐れもあります。
- 2) 注油を怠ると油切れによりサビ付や焼付きの原因となり、操作が重くなり破損の原因となります。

サイドクラッチワイヤ



走行クラッチレバー(左)



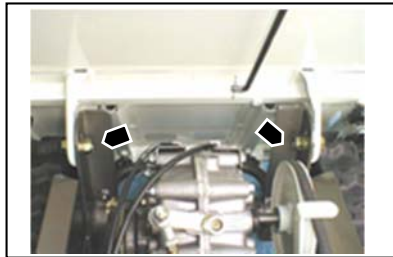
走行クラッチレバー(右)



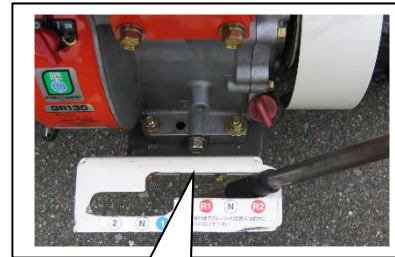
走行テンションアーム支点



ダンブ支点



変速レバー支点



レバー支点

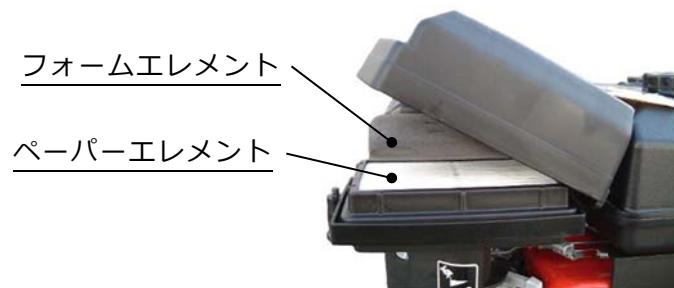
## 5.2 エンジン関連の清掃・点検・調整

### 5.2.1 エアクリナーの清掃



- エアクリナー・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に点検し清掃してください。  
…エアクリナーを外したままエンジンを始動させないでください。…  
ゴミやほこりをエンジン内部へ吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。

#### ■ 乾式 メイキ GB131



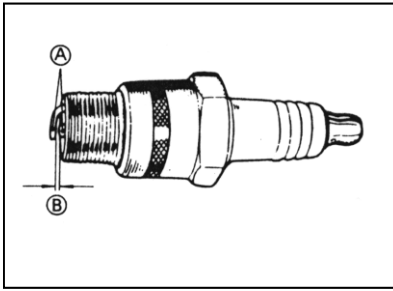
- 1)カバーを取外し、ホコリやゴミを気化器側へ入れないように注意深くフォームエレメントとペーパーエレメントを取り出してください。
- 2)フォームエレメントは、白灯油（または中性洗剤）で洗浄後よく絞り、乾燥させてください。
- 3)ペーパーエレメントは内部から圧搾空気を吹き付けるか、軽くたたいて汚れを落とします。
- 4)ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元のとおり組み付けてください。

エアクリナーの清掃、交換次期について		
	清掃	交換
フォームエレメント	毎運転前	100 時間毎
ペーパーエレメント	毎運転前	100 時間毎

#### 参考；

- 1)洗浄時、フォームエレメントを強く引っ張ったりもんだりしないでください。エレメントが破れ使用できなくなります。
- 2)チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けてください。

## 5.2.2 点火プラグの点検・調整



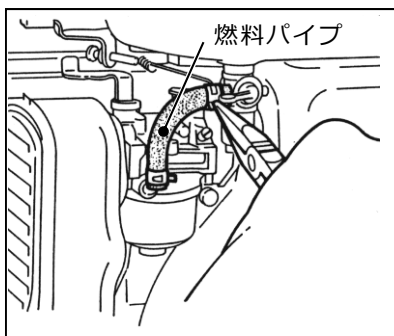
- 1) プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分(A)にカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取ってください。
- 2) 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換してください。
- 3) 点火プラグの電極隙間(B)を 0.7~0.8mm に調整してください。

参考 ; 締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでから(ガスケットが座面に当たるまで)プラグレンチを使用してください。

・初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意してください。

<点火プラグ基準…6.1 仕様 参照>

## 5.2.3 燃料パイプの点検



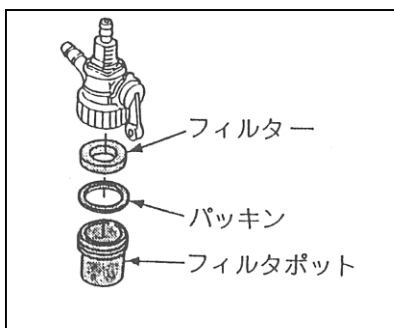
**危険**

くわえタバコや裸火での作業禁止

- 1) 燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。  
締め付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換してください。
- 2) パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意してください。

参考 ; パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意してください。

## 5.2.4 燃料フィルタポットの清掃



**危険**

くわえタバコや裸火での作業禁止

- 1) 50 時間使用ごとに燃料コック内部を清掃してください。
- 2) 清掃はホコリやチリのない清潔な場所で行ってください。
  - ① 燃料コックを「閉(OFF)」位置にしてください。
  - ② 燃料フィルタポットを外し、底にたまっている沈殿物(ゴミや水等)及びフィルタを引火性の低い灯油等の溶剤で洗浄し、エアを吹き付けて乾燥させてください。



**警告**

ガソリンやシンナ等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないでください。

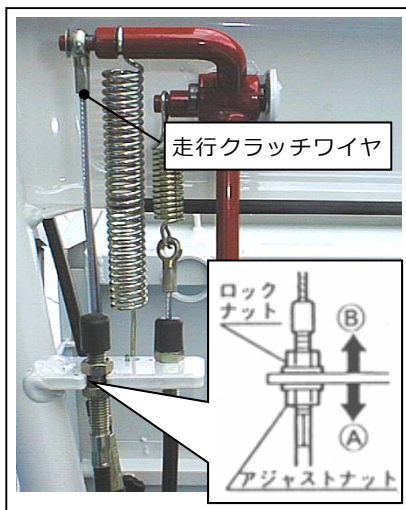
## 5.3 製品本機関連の点検・調整



- 1) 点検・調整は必ず本機を平坦な広い場所に置き、エンジンを停止して行ってください。
- 2) 各操作レバーが正しく作動するか確かめてください。（毎回始業時）
- 3) ワイヤ・ベルトは初期伸びしますので、2～3時間運転後に再調整してください。
- 4) ワイヤ・ベルトは消耗品です。異常があれば新品と交換してください。  
〈サイズは 6.1 仕様 参照〉
- 5) 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べてください。
- 6) 調整後は、両クラッチレバーの「入」・「切」の動作確認を必ず行ってください。
- 7) 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認し、確実に締め付けておいてください。
- 8) 調整のために取り外したカバー類は必ず元のとおりに取り付けてください。
- 9) 各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけてください。
- 10) 作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。〈7.1 定期点検表 参照〉
- 11) 本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検してください
  - もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談ください。
  - オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

## 5.3.1 各部ワイヤ・ベルト調整

## ① 走行クラッチワイヤ調整

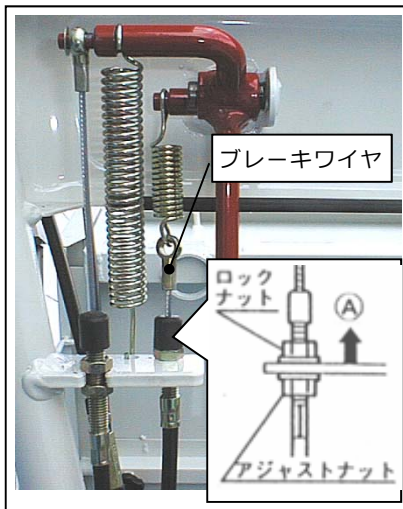


- ① 走行クラッチレバーを「停止(下側)」位置にして、走行クラッチワイヤをフリーの状態にしてください。
- ② 走行クラッチワイヤのロックナットを緩めてください。
- ③ アジャストナットを回し、走行クラッチワイヤの張りを調整してください。
  - ・ 走行クラッチを入れても負荷がかかるとVベルトがスリップする場合。  
…アジャストナットを「B」の方向へ…
  - ・ 走行クラッチの切れが悪い場合。  
…アジャストナットを「A」の方向へ…
- ④ 調整後は、ロックナットを確実に締め付けてください。

## ②ブレーキワイヤ調整

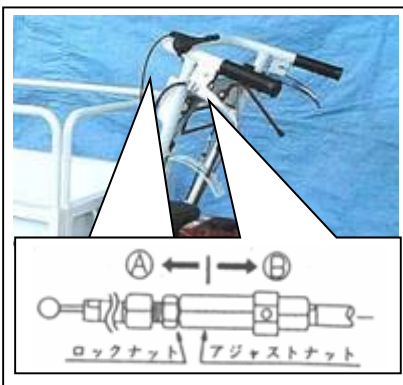


ブレーキの利きが甘いと本機の暴走等、非常に危険です。逆にブレーキを引きずると本機故障の原因となりますので、ブレーキの利き方に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにしてください。



- ① 走行クラッチレバーを「走行(上側)」位置にして、ブレーキワイヤをフリーの状態にしてください。
- ② ブレーキワイヤのロックナットを緩めます。
- ③ アジャストナットを回し、ブレーキワイヤの張りを調整してください。
  - ・ ブレーキの利きが甘い場合。  
…アジャストナットを「A」方向へ回転させ、走行クラッチレバーが「停止(下側)」でブレーキワイヤ付け根のバネが5～6mm程度伸びるように調整してください。
  - ・ ブレーキを引きずる場合。  
…上記と逆の調整をします。
- ④ 調整後は、ロックナットを確実に締め付けてください。

## ③サイドクラッチワイヤ



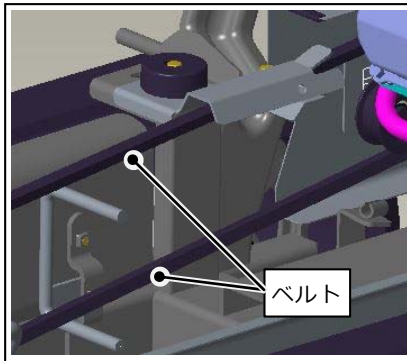
- ① サイドクラッチワイヤ中間アジャスタのロックナットを緩めます。
- ② アジャストナットを回し、サイドクラッチワイヤの張りを調整してください。
  - ・ サイドクラッチレバーの戻りが悪い場合。  
…アジャストナットを「A」の方向へ…
  - ・ サイドクラッチレバーの切れが悪い場合。  
…アジャストナットを「B」の方向へ…
- ③ 調整後は、ロックナットを確実に締め付けてください。

■ サイドクラッチレバー先端部での遊びが2～5mm程度になるように調整してください。

## 参考；

サイドクラッチレバーの遊びが多くなり利きが甘くなった場合、または旋回がスムーズに行えない場合には、サイドクラッチワイヤの中間アジャスタで調整してください。

## ④走行Vベルト点検



①荷台をダンプさせます。

〈4.3 荷台ダンプ操作のしかた 参照〉

②走行Vベルトに損傷がないか目視点検し、損傷が確認された場合には交換してください。

〈下記、⑤ベルト押さえ調整のしかた 参照〉

③荷台を元の位置に戻します。

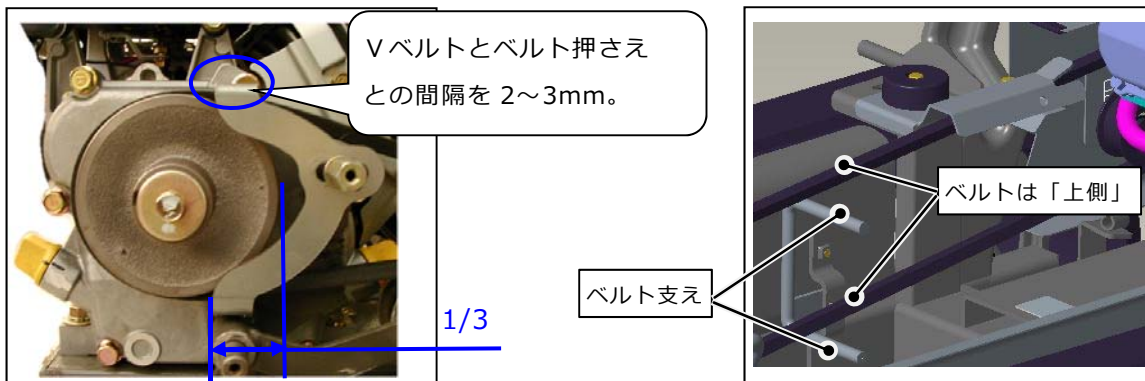
〈4.3 荷台ダンプ操作のしかた 参照〉

参考：走行Vベルトは消耗します。常時点検し、異常があれば新品と交換してください。調整時期は以下の通りです。

調整時期…初回:2~3時間目 以降:50時間運転毎

調整時期…初回:2~3時間目 以降:50時間運転毎

## ⑤ベルト押さえ調整



①荷台をダンプさせます。〈4.3 荷台ダンプ操作のしかた 参照〉

②走行クラッチレバーを「走行(上側)」位置にして、走行Vベルトとベルト押さえとの間隔が上側で2~3mm程度になるようにベルト押さえの位置を調整してください。

③荷台を元の位置に戻します。〈4.3 荷台ダンプ操作のしかた 参照〉

## 参考；

- 1)走行クラッチの切れが悪い原因として、ワイヤの調整不良の外にベルト押さえの調整不良があります。Vベルトの交換等によりベルト押さえを取り外した場合には、以下を参考にベルト押さえの調整を行ってください。
- 2)ベルト押さえはエンジンプーリの約1/3程度に位置させ、走行クラッチレバーが「停止(下側)」位置のときに、ベルトを軽く押さえ、ベルトがエンジンプーリの溝より軽く浮き上がる様にセットします。またベルトは、ベルト支えの上側になるようにしてください。

## ⑥クローラー張り調整

**注意**

- 1)クローラは新品時には初期伸びが、使用時間の経過とともに、スプロケットとのなじみによる緩みが生じてきます。
- 2)クローラの張りが正しく調整されていないと脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮めますので以下の要領に従って、クローラの張りを調整してください。

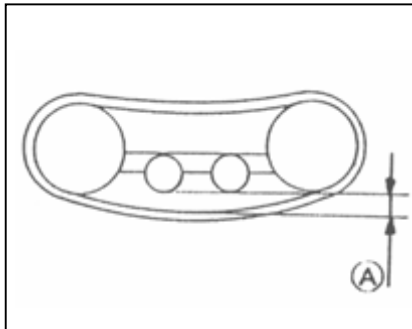


- ①ジャッキアップ等をして本機を地面と平行に浮かしてください。

**警告**

ジャッキ等が作業中に外れると非常に危険です。しっかりと固定してください。

- ②車体後部のクローラ張りボルトのロックナットを緩めてください。



- ③クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪との隙間「A」が8 mm 程度になるよう調整してください。

- ④左右のクローラの張りが均等になるよう調整ください。

- ⑤調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。

- ⑥本機を降ろしてください。

## 5.4 長期保管のしかた

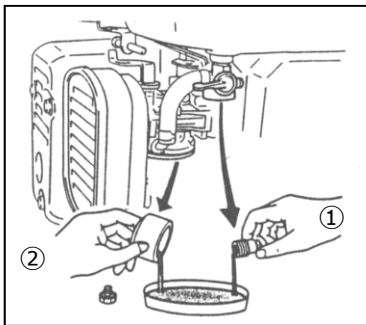
### 5.4.1 長期保管の準備

- 燃料タンクやキャブレタ内に燃料を残したまま長期保管すると、  
→再始動困難や出力低下等のトラブルの原因となります。 □



- 1) 燃料を抜く時は風通しの良い場所で、くわえタバコや裸火等の火気には十分注意し、抜いた燃料の取扱いには十分に注意してください。
- 2) 燃料タンク内のガソリンを抜く時、または本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラーが十分に冷えているのを確認してからにしてください。

- 1)本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、または運転不調にならないように燃料タンク及び気化器内の燃料を抜き取ってください。



#### ①燃料タンク内の燃料

燃料フィルタポットを外し、受け皿等を当ててから燃料コックを「開」位置にして抜き取ってください。

#### ②気化器内の燃料

気化器下部のフロート室締め付けボルトを外して抜いてください。

③安全のため、燃料コックは必ず閉めてください。

- 2)各部の清掃を十分に行ってください。特にリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラー・気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいてください。

- 3)各給脂・注油箇所に注油をして、不具合箇所は修理しておいてください。

- 4)屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管してください。

- 5)本機にカバー等をかけて、ほこりがかからないようにしてください。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れてください。（\*本機カバーは付属していません。）

### 5.4.2 次回使用時の注意



- 1) 新鮮な燃料を使用してください。
- 2) 作業前の点検を行ってください。
- 3) 各操作レバーが正しく作動するか確かめてください。（毎回始業時）
- 4) 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認してください。
- 5) 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べてください。
- 6) 各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけてください。



## 6. 付表

## 6.1 仕様(参考数値)

型 式		L S 3 6 0	
重 量 (Kg)		140	
最大積載能力 (Kg)		300	
本 機 寸 法	全 長 (mm)		1,440
	全 幅 (mm)		680
	全 高 (mm)		994
	クローラ接地長さ (mm)		690
	クローラ中心距離 (mm)		530
	最低地上高 (mm)		86
	床面高さ (mm)		368
荷 箱	荷 箱 内側寸法	長 さ (mm)	924(1,100)
		幅 (mm)	590(900)
		高 さ (mm)	188
走 行 性 能	走 前 行 進	①速 (Km/h)	1.5
		②速 (Km/h)	3.4
	速 後 度 進	R1 速 (Km/h)	1.5
		R2 速 (Km/h)	3.4
	最小回転半径 (mm)		1,100
	登坂能力 (度)		20° 〈空車時〉
ミッション油量 (ℓ)		1.6	
ベルト		LA74	
駆 動 系 装 置	走行クラッチ		ベルトテンション方式(ブレーキ連動)
	変 速		ギヤスライド
	操 向 装 置		ドグクラッチ&爪ロック式
	駐車ブレーキ		内拡式ブレーキ
	クローラ		160W×60P×35L
昇 降	ダン プ 方 式		手動ダンブ
	最大上昇角度 (度)		50°
エ ン ジ ン	名 称		メイキ
	型 式		GB131PN-355
	潤 滑 油 量 (ℓ)		0.5
	最大出力 kw (PS)		3.0 (4.2)
	始 動 方 式		リコイルスタータ
	総 排 気 量 (CC)		126
	点 火 プ ラ グ (NGK)		BP6HS
燃料タンク容量 (ℓ)		2.5	

※( )内寸法はサイドフレーム延長時を示します。本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

## 6.2 工具袋・同梱品明細

No.	部 品 名	規 格・寸 法	個 数	備 考
①	取扱説明書		1	
②	品質保証書		1	
③	エンジン工具	エンジン付属品	1	
④	両口スパナ	10×12	1	
⑤	〃	14×17	1	
⑥	〃	19×22	1	

## 6.3 消耗品明細

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
①	Vベルト	89-6122-007401	1	LA 74
②	ブレーキワイヤ	80-1920-319-10	1	
③	走行クラッチワイヤ	80-1923-961-10	1	
④	サイドクラッチワイヤ	83-1920-962-10	2	
⑤	スロットルワイヤ	0914-75110	1	
⑥	ゴムクローラ	80-1920-401-00	2	160W×60P×35L
⑦	警告マーク6種	0913-73400	1	
⑧	警告ラベル④	0253-72500	1	
⑨	注意マーク⑩	83-1516-908-00	2	このカバーなし…
⑩	走行クラッチマーク	80-1923-914-00	1	
⑪	積載量マーク	80-1923-914-00	1	

## 7. 点検表

## 7.1 定期点検表

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期点検表」を参考に点検を行ってください。

★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業前に毎回点検を行ってください。

項目	点検項目	確認項目	確認	始業	月次	年次	
制動装置	ブレーキ (該当製品)	駐車ブレーキの利き具合	ひきずりは無い、甘くないか	ブレーキシュ	○	○	○
		ブレーキロッド ジョイント	変形、ガタはないか	ロッド ジョイント	○	○	○
		Uナット Wナット	緩み、脱落はないか	Uナット Wナット	○	○	○
		割りピン	欠落、欠損はないか	割りピン	○	○	○
刈取部	カバー	カバーの状態	曲がり、亀裂、腐食はないか、 フリップゴムの取付状態は適切か	カバー フリップ	○	○	○
	回転部	ナイフ&ステアー (爪) および取付状態 (該当製品)	反り、摩耗はないか	ナイフ ナイフステ	○	○	○
			ボルト・ナットに緩み、摩耗、脱落はないか	ボルトナット	○	○	○
	ナイフブレーキ	ブレーキの利き具合 (5秒以内で停止するか)	ブレーキ	○	○	○	
エンジン	本体	加速、排気、チョーク の作動状態	加速はスムーズか、排気色、臭は正常か、 チョークの操作はスムーズか	加速 排気 チョーク		○	○
		マフラ、バッテリー	取付に緩みはないか、腐食はないか、 バッテリーの充電状態はよいか	マフラ バッテリー		○	○
		エンジン本体	エンジン取付に緩み、亀裂はないか	取付		○	○
		エアクリーナ	汚れ、目詰まり、破れ、スリ切れ等はないか	エアクリーナ	○	○	○
	潤滑油	エンジンオイル オイルフィルタ (該当製品)	量、質、漏れ、異物の混入はないか、 交換時期は適切か	オイル フィルタ	○	○	○
		【エンジンオイル：初回5H、以降50H毎、フィルタ100H毎に交換】					
	油送路	燃料チューブ、フィルタ	燃料漏れ、劣化、変形、目詰まりはないか	チューブ フィルタ		○	○
	点火系	点火プラグ	碍子に亀裂、電極間にカーボンの堆積はないか	プラグ		○	○
		高圧コード、プラグキャップ	劣化、亀裂、キャップに割れはないか	コード		○	○
	冷却系	エンジンハウジング	ハウジング内に草屑等の堆積はないか	カバー内		○	○
	配線	ハーネス	緩み、損傷はないか	ハーネス		○	○
	冷却系	エンジンハウジング	ハウジング内に草屑等の堆積はないか	カバー内		○	○
	伝達系	ベルト	走行、ナイフベルト	張り具合、亀裂、損傷、著しい汚れはないか	走行 ナイフ	○	○
ミッションオイル			量、質、油漏れ、異物(水分、エア)の混入	Mオイル		○	○
【ミッションオイル：初回20H。それ以降、100Hで交換】							
減速 油圧		HST オイル (該当製品)	量、質、油漏れ、異物(水分、エア)の混入	H オイル	○	○	○
【HST オイル(VG46 相当)：初回「各、取扱説明書を参照」。 それ以降は200H、または年1回交換。(HST オイルフィルタも同時に交換)】							
可動部	レバー・ワイヤ等の可動状態 (デフロック・副変速は該当製品)	作動はスムーズか 固着、錆付きはないか	デフロック	○	○	○	
			刈取	○	○	○	
			副変速	○	○	○	
変速	変速レバー	作動、N位置は適切か、緩み、ガタはないか	レバー	○	○	○	
走行部	タイヤ (クローラー)	エア圧は適切か、損傷及び偏摩耗はないか	タイヤ	○	○	○	
	取付状態	ボルト・ナットに緩み、ガタ、脱落はないか	取付	○	○	○	
ハンドル	取付状態	ボルト・ナットに緩み、ガタ、脱落はないか	ハンドル	○	○	○	
計器	アワメータ(該当製品)	表示時間は該当か、作動状況は適切か	アワメータ			○	
ラベル	警告ラベル及び銘板	貼付けは適切か(剥れ)、損傷、汚れ	ラベル			○	

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

## 7.2 エンジン不調とその処理方法

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をしてください。

現象	原因	処置
始動困難な場合 (始動しない場合)	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークバルブを引いていない。	エンジン冷却時、チョークバルブを  位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	* 点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークバルブを完全に戻す。  位置にする。
	冷却システムが目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークバルブを完全に戻す。  位置にする。
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	* リングを交換する。
エンジン回転が安定しない(上昇しない)	チョークが完全に開いていない。	チョークバルブを完全に戻す。  位置にする。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	* 点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※ \* 印は販売店にご相談ください。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。